チート主が歩む軌跡

厨二病な人

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
チート主が歩む軌跡

【Ｎコード】
Ｎ７３３２Ｙ

【作者名】
厨二病な人

【あらすじ】
・・・・ゑ？転生ですか？さいですか。
ひょんなことから転生してしまった一人の厨二病な青年。
その青年が歩むは最強オリ主物語。
「ふへへ、俺の最強の力で世界を侵略してやるでゲス」
青年が望んだ世界は《ネギま》しかし、実際送り込まれた世界は・・・
涙も笑いもないけど、外道はあるかも？
そんな青年の転生ライフを綴った物語です。

初めに（前書き）

この小説の注意事項です。

初めに

・世界観を壊します！原作好きなな方は不快な思いをすると思います。

・自己満で書いてるものです。

・キャラ崩壊や所属組織の違いがあります。

・流れとしては原作に沿いますが、完全な原作沿いではありません。
軌跡の舞台と設定、キャラを使った別の作品と考えてください。

・主人公は最強です。あとバカです。

・他のマンガやアニメの組織名・技名がでたりします。

・ハーレム物にするつもりです。

・不定期更新です。

・あと、駄文です。

不満なものが一つでもありましたら読まないでください。
嫌々読んでもらって不快な思いをさせたくないですし
嫌々読んでもらいたいとも思いません。
誰に対しても面白いと思える作品を書くだけの力量はないですし
読める方だけ読んでもらいたいです。

出来るだけ大人な対応でおねがいします。

それでもよい方はどうぞ、読んでやってくださいな。

主人公紹介（前書き）

主人公の紹介？です。

主人公紹介

名前　シュウ・スカーレット（リベール）
性別　男
生まれ　古代ゼムリア文明
年齢　？歳（肉体は１９歳）

神様からもらったチート
？不老（１９歳になったら）
？限界のない肉体
？神眼（「万華鏡写輪眼、白眼、直死の魔眼、絶対遵守のギアスの能力」を持つ眼）
？完成（ジ・エンド）
？大嘘憑き（オールフィクション）
？あらゆる干渉を否定し我を通す程度の能力
？音遣い
？曲弦師
？？？？

前世では厨二病だった為、ぼっちだった。
神様の粋な計らいでイケメソになれた（、・ω・、）キリッ
これで友達ができるといいなぁ（※本人談）

主人公紹介（後書き）

世界観を壊す予定です。

そういうのが嫌な方は、御覧にならない方がよろしいと思います。

プロローグ（前書き）

はじめまして！厨二病な人ですｗ

略して厨二さんですｗ

初めての投稿なので拙いことが多々ありますが

よろしくお願いします。

ではでは本編をどうぞ！

プロローグ

ん？・・・辺りが暗いな。真っ暗だ。

俺は昨日、部屋でエロゲをやっていた筈だが此処はどこだ？

ハッ！これはもしや隠された能力が発現するフラグか？！

ふひひw力が目覚めた暁には俺を見下してきた奴らにふくｓｙ

「もうそろ目を開けてくれんかのう」

はぁ？

ああ。なんだ、目を閉じていただけか。（きゃっ！恥ずかしい／／／／）

「おぬし、キモイぞ」

うっせえ！！

まぁいい。目を開いてみよう。

其処には真っ白な空間が広がっていた。

「ちゃんと見えておるかのう？」

声がした方を見ると其処にはミニマムな豆粒並に小さいおっさんが居た。

「本当は大きいんじゃ！！エコで小さくなってるだけじゃ！！」

小さくなるだけで何がエコにつながるんだ？

「まぁいい。オホン。さて、これで話が進められるのう。おぬしの状況を説明しよう。

結論から言えば、おぬしは死んだ。」

ナ、ナンダッテー！！（ °Д °；）

～～～テンプレ的　説明中～～～

要するに１０個特典をつけて転生させてくれるってことだな。

「そういうことじゃ」

ふむ、なら・・・

？不老の肉体（１９歳になったら発動）

？鍛えても限界のない肉体

？神眼（万華鏡写輪眼、白眼、直死の魔眼、絶対遵守のギアスの能力を持った眼）

めだかボックスから

?:完成(ジ エンド)

?:大嘘憑(オールフィクション)き

?:鬼巫女の「あらゆる干渉を否定し我を通　す程度の能力」

「十分チートじゃのう。神殺しにでもなるつもりか？」

うっさい！せっかくの機会だ、最強になってやる（、・ω・，）キリッ

戯言・人間シリーズから

?:音遣い

?:曲弦師

「ふむふむ。で、あと一つはなんじゃ？」

ふふ。後一つは――――だ！！

「！！！・・・制限をかけさせてもらうがよいか？」

ちっ。しゃあねぇな。まぁいいぜ。

「うむ。了解じゃ」

～～～神たま　能力付加中～～～

ぴぴるぴるぴるぴぴるぴー

ふふふ。ふはははは！！！

力が漲ってくるぞー！！！

「では、世界へ行ってもらおうかの」

この穴に飛び込めばいいんだな！

待ってろ俺の嫁達！！

刹那～木乃香～俺だぁ結婚してくれ！！！

あい　きゃん　ふらい～～～～～～～～～

「そういえば、あやつに転生先を言ったかのう？・・・ま、よいか（笑）。

さて、東方の続きをやろうかのうｗｗ」

プロローグ（後書き）

ここまで読んでくださってありがとうございます。

誤字・脱字がありました報告してくださるとありがたいです。

アドバイスなどもあると嬉しいです！

第一話　俺☆転生（前書き）

はい、厨二病な人です。

本編をどうぞ！

第一話　俺☆転生

どうも、シュウ・リベールです。

今、５歳です。え？今までのことは書かないのかって？

書ける訳ないだろ／／／／

強いて言うなら赤ちゃんプレイはこうｈ（ゲフンゲフン

まぁ、俺はどうやら魔法世界の生まれらしい。

何故分かったって？大人たちがカッコイイ魔法を使ってたし

モノレールみたいのが空中を走っていたからだ！！

ただ、未来っていう可能性も捨てきれない。

だとしたら超（チャオ）に会えるか？

難しそうだな・・・。

そういえば、３歳の頃から気の訓練をしている！

モチロン親にはばれてない（、・ω・´）キリッ

魔法はいつになったら教えてもらえるんだろうか？

この街に住んでる人々は優秀らしい。

その証拠として、魔法発動体を使わずに魔法を使用してたしな。
ただ、どれも聞いたことのない魔法ばかりだ。
さて、今日も特訓するぜ！！

7歳

どうも、シュウです。
最近知ったのですが、この街浮いているらしいです。
《リベル＝アーク》っていうらしいです。
あれ？「ネギま」にそんなもん出てきたっけ？
あ、気の扱いは大方できるようになりました！
親父が刀の達人らしいので教えてもらってます！！
あと、母親がいつまでたっても可愛いままで困ります／／／
もう、特訓の時間だ。欝だ・・・

9歳

父親に圧勝できるようになってしまったｗｗ

自分の才能が怖いな（笑）

そういえば、魔法の正体が分かった！

黒い半円球の道具を使って魔法を具現化するらしいです。

強くイメージするのが大切なんだとか。

よくわかんねｗｗｗｗ

１０歳

気がついたらこの街最強の魔法剣士になっていた。

あ、俺の容姿について言ってなかったな。

俺の容姿は・・・ナギ・スプリングフィールドと同じだ。

銀髪だけどな。

今日も仲間を連れて、兵士達をからかいにいくかｗｗｗｗ

仲間と鍛えあったり、兵士と戦ったり

馬鹿をやりながら平和な日常を楽しんでた。

１９歳

今日は誕生日だ。

だが・・・

だが・・・・

なぜ、なんで、仲間(こいつら)の、家族の、街の、兵士の死体が周りにあるんだ！！！！

俺は昨日ベッドで寝てた筈。なのに起きたら死体に囲まれ見たこともない場所で寝ていた。

いつまでも絶望に暮れてる訳にもいかないので

墓を作り死体を埋めて　辺りの探索に出た。

そしたら、街の人口から考えたら少ないが生き残りが居た。

その人たちと話し合い、墓へ黙祷しに行った。

その後分かった事なのだが、《リベル＝アーク》は暴走する危険性があったらしい。

それを阻止するために封印したんだとか。

よくわかんねーな。

ほにゃらら・あうすれーぜって人が謝罪していた。

その人の命をもって最後の封印をするらしい。

俺はそれに協力した。

封印後、俺はあの人の養子になったことを生き残った人々に説明した。

反感などもなく、皆受け入れてくれた

俺こと、シュウ・R・アウスレーゼ　初代国王として

【リベール王国】

を作った。

第一話　俺☆転生（後書き）

ありがとうございました！

誤字・脱字がありましたら報告してくださると喜びます！

第二話　緊急クエスト　「古龍、討伐！！」（前書き）

どうも！厨二ですw

もうそろ原作キャラを出したくなったので

あの方に出てもらいました！

そして初めての戦闘描写。

上手く表現できるか分かりませんが

楽しんでもらえたら幸いです！

では、本編どうぞ！

第二話　緊急クエスト　「古龍、討伐！！」

皆の衆、こんばみーｗｗシュウ・スカーレットだすｗｗ

え？名前とキャラ変わってるって？

リベール姓は国に、アウスレーゼ姓は子孫に託してきた！

実はいうと前回から３００年経ってるのだ。

その間、何をしてたかというと主に修行をしてた。

修行の結果・・・舞空術と飛天御剣流が使えるようになったｗｗ

空飛んだ時はビビッたね。だって朝起きたら身体浮いてたんだもんｗｗ

そういえば、《リベル＝アーク》を封印する為に異次元の扉を開いたせいか

魔物？まぁ地上では見かけなかった生き物が２００年前ぐらいから現れるようになった。

世界は争いでそれどころではないがな。

俺の任期中はなんとか争いがなかったが、魔物が出てきたらへんから国同士が

争い始めたな。

俺も危険そうな魔物を狩っているが、一向に減りそうにない。

もしかして人の感情と関係あったりするか？

・・・どうでもいっか（∀、＊ゞ）

今はどっかの山を登ってる。

何故かって？そこに山があるからさ（、・ω・´）キリッ

痛い、痛い。石投げないで！

本当は山の上らへんから強そうな気を感じるからだ。

俺ぁつえー奴と戦いてぇんだ！！

と、いうことで到着。

この横穴の奥から、ヒシヒシと強者の氣を感じる。

よし！いくぜ！！

中に入ると其処には、天井にあいた大きな穴から降り注ぐ光が幻想的に輝く広大な空間があった。

うおぉぉ、めっちゃキレイだｎ「此処に何の用だ、人の子よ」

あ？　んだよって・・で、でけぇ！！！！！

声のした奥の暗がりを見ると碧い巨大な竜が鎮座していた。

「もう一度問おう。此処に何の用だ、人の子よ」

強い氣を感じたから来たんだ！！俺と勝負しろ！

「ふむ。本来なら断るのだが、おぬしは普通の人の子とは違うようだ。

殺さぬ程度に相手をしてやろう。」

上等だ！

俺は《麒麟功》を使い身体能力の底上げをした。っけ、初撃は譲ってくれるってか。

竜は静観してるだけだった。

吠え面かかせてやる！！喰らいやがれ《てきとーに右パンチ》

直撃だがあまり効いてないようだ。

「これは・・・本気を出すか」

そういうと竜は呪文を唱えた。

【プレッシャーエクスプロージョン】

なんだ？

そう思っていたら上空から高エネルギーをかんじた。

やっべ！！！

瞬動を使い全力で避けた。

俺がさっきまで居た場所にはクレーターができていた（；　・、д・´）

やっぱつえーなｗｗ

俺は《分け身》を使い、分身を二人だして連携して技を放った。

分身１　《光連斬》
本体　《龍巻閃・「枯」「旋」「嵐」》
分身２　《竜槌・翔閃》

「ぐぅぅ・・・」

これは効くんだな！ならトドメだ！！

俺は分身を解き、体内の気を練った。

思い描くは最強の一撃。

くらいやがれぇぇぇ！！！！

《天翔龍閃》

ズシンッ！！

竜は大きな音をたてて倒れた。

はぁはぁ。ぅっっしゃーーーー！！！

勝ったぞぉぉぉぉぉ！！！

俺が喜んでると、いつのまにか倒れてた竜が起き上がっていた。

「いい一撃だった。人の子にしてはおぬしは強いな。」

へっ！当たり前だろ。俺は最強の剣士シュウ・スカーレット様だぜ！

その後、竜と話しながら酒を飲んだ。竜って酒飲めるんだなｗｗ

そしたら何時の間にか、レグナートとは友達（ダチ）になってた！

レグナートって誰かって？

竜の名だ！俺様が名付けてやった（・∀・）

俺様の次にカッコイイ名だな！

そして、俺はレグナートと別れた。

ーーー現在　七耀暦　３００年頃ーーー

おまけ

レグナートから竜の素材を貰った。

これでなんか装備作ろうかな？

最強の刀や最強な鎧・・・う～ん

考えれば考える程アイデアがでてくるｗｗ

夢がひろがりんぐ☆

第二話　緊急クエスト　「古龍、討伐！！」（後書き）

ここまで読んでくださってありがとうございます！

誤字・脱字・アドバイスがありましたらご教授してくださると

ものすごく嬉しいです！

クラフトには《　》をアーツは【　】使ってみました。

見やすいですかね？

主人公のセリフにも「　」使った方が読みやすいかな？

意見待ってます！

主人公ステータス表？（前書き）

七耀３００年時のステータスです！

主人公ステータス表？

シュウ・スカーレット

３１９歳

Ｌｖ．８３

ＨＰ：　１１５２４

ＥＰ：　？

ＳＴＲ：　７２２　ＤＥＦ：　７１０

ＡＴＳ：　？　ＡＤＦ：　？

ＳＰＤ：　７６　ＤＥＸ：２８

ＡＧＬ：　２９

容姿　「ネギま！」のナギ・スプリングフィールド

装備

武器　鍛え抜かれた刀

防具　なんか凄いローブ

足具　宝具からくすねた靴

アクセサリー
・不思議なロケット
・２２２歳の時、記念に作った指輪

クラフト

麒麟功　　ＣＰ．２０消費
体内の気を瞬時に練りげ、一定ターンＳＴＲとＳＰＤを上　昇させる

万華鏡写輪眼
・魔幻　枷杭の術　　ＣＰ．１５消費
使用すると敵の体は杭が　刺さった光景となり、身動きが取れなくなる。３ターン麻痺。

・天照　　ＣＰ．３０消費
太陽の如き高温の黒い炎を出現させる。その炎は対象物が燃え尽きるまで消えない。炎傷。

・月読　　ＣＰ．３０消費
瞳力の宿った目を見た相手　に術者が時間や空間、質量などあらゆる物理的要因を支配する自らの精神世界へと対象を引きずり込み、相手に無　間地獄を体験させる幻術。８０％即死&混乱。

・神威　　ＣＰ．５０消費
「結界空間」と呼ばれる　ものを視界に展開し、術者の任意の範　囲内の物質を別空間へ転送する術。３ターン退場。

・（別天神　　ＣＰ．２００消費）
瞳力の宿った目を見た対象者を、幻術に掛けられたと自覚する事なく操る事ができる
正に最強の幻術。対象者を3ターン操る。

直死の魔眼　　ＣＰ．５０消費
『モノの死』を形ある視覚情報として視て、捉える異能。即死攻撃。

分け身　　ＣＰ．２０消費
気を練り上げ、己の分身を作る。

てきとーに右パンチ　　ＣＰ．３０
気合いと勢いとノリが籠もったパンチ。名前の割には最高クラスの破壊力を誇る。

光連斬　　ＣＰ．２５消費
無拍子で敵に近づき高速の連撃で突き抜け　る。

龍鳴閃　　ＣＰ．１０消費
神速の納刀術。高速で刀を鞘に収め、この時発生する龍の嘶きの如き超音波の鍔鳴りを
すれ違い様に相手の耳に叩き込　んで、一時的に相手の聴覚を強制麻痺さ　せる技。アーツ解除＆封ア

竜槌・翔閃　　ＣＰ．３０消費
神速で相手の懐に入り鞘で相手を空中に打ち上げ、
高空から打ち下ろした後、更にふらつく相手を斬り上げる、激しい三連撃。

龍巻閃・「枯」「旋」「嵐」　ＣＰ．５０
相手の目前で刀を上段に構えて跳躍し、前転し、その勢いを利用して刀を振り下ろす技。
剣技【竜巻閃・「枯」】、【竜巻閃・「旋」】、【龍巻閃・「嵐」】の三つの剣技を組み合わせた技。

Ｓクラフト

九頭竜閃
剣術に於ける斬撃には「唐竹（切落）」「袈裟斬り」「逆袈裟」「右薙（胴）」「左薙（逆胴）」「右切上」「左切上」「逆風（切　上）」「刺突」の九種類があるが、
これは飛天御剣流が誇る所の「神速」を最大限に生かし、
刀が斬り付けるべき９つの場所全てにほぼ同時に斬撃を送り、
更に突進して相手に全く防御させない技。

天翔龍閃
飛天御剣流最強の技。飛天御剣流が誇る所の「神速」を更に越える「速さ」を持つ抜刀術。
自在に操る為には、「生き　ようとする意志」が必要である。具体的　には、
抜刀の際に右足ではなく左足から　踏み出し、
加速と衝撃力を上乗せする事　により、大きな破壊力を得る。

滅技・死屍累々
写輪眼の動体視力と直死の魔眼、飛天御剣流の刀技、チートな身体能力を最大限に使った殲滅奥義。
超神速に乗って繰り出される太刀筋は見切ることは不可能。即死＋状態異常＋すぐ行動。

主人公ステータス表？（後書き）

チート過ぎますかね？

誤字・脱字の報告やアドバイス待ってます（　＾ω＾　）

第三話　心の支えって凄い（前書き）

主人公が勘違いに気がつきます！

そして今回は短いです。

では、本編をどうぞ！

第三話　心の支えって凄い

どうも！シュウ・スカーレットです！！

ただいま、もの凄く頑丈かつ柔軟な糸を作成中です。

いやぁ～だってね？なんか飽きちゃったんだもん♪←うざいｗ

世の中もだんだん落ち着いてきたしね。

２００年ぐらい前かな？七耀教会ってのが出来て宗教による救済が広まっていったんだわ。

あの勢いは凄かったな・・・。それだけ人々が救いを求めてたってことだけどさ。

まぁ俺が広めるのを手伝ったんだけどなｗｗ

その代わりに法力を教えて貰ったＺＥ☆

法力を自分が使いやすいように改造したら魔法みたいになっちまったｗ

使い勝手悪いから戦闘には使えんが転移が使えるようになったのはありがたい。

でだ、ここからが重要なんだが教義の神様の名前が。《空の女神（エイドス）》というらしい。

それがなんだって？此処はネギまの世界じゃないってことだよぉぉ～～～～！！

前から怪しいとは思ってたが本当にそうだとは思わなかったｏｒｚ

年号や神の名から俺の好きな軌跡シリーズだと断定した！

それならそれでアリだなｗｗってことで転生ライフを楽しんでます（＾ω＾）

そんなこんなで、世間も落ち着き俺も飽きたので新しい武器として頑丈かつ柔軟な糸を作成してるのさ～。

でけたーｗｗ

これでやっとこさ《音使い》と《曲絃師》のスキルが使える。

あ、アコギやリュートとか楽器作ろうかな？

ーーー現在　七耀暦　７００年頃ーーー

おまけ

やっぱい！糸が剣より便利すぐるｗｗ

・・・剣、やめちゃおっかな？（笑）

なんて考えながら、調子こいて糸で切断しまくった森だったものの前で

現実逃避をするのだった。

第三話　心の支えって凄い（後書き）

ここまで読んでくださってありがとうございます！

誤字・脱字等がありましたら教えてくださるとありがたいです。

次回は獅子戦役かもしくはその前に組織を作るかもしれません。

閑話　～ある日の父との訓練（下ネタあり）～（前書き）

どうもっす！
今回の注意として、意味が分からなさすぎて正気が削れる可能性があります。そういう心配がある方は読まない方がよろしいと思います。

主人公が飛天御剣流を覚えるキッカケになった出来事を書きました。
主人公の父の流派はヒテンミツルギスタイルです。
下ネタがふんだんに入ってます。
意味の分からなさ加減もはんぱないです。

では、本編どうぞ！

閑話　～ある日の父との訓練（下ネタあり）～

ぐーてんもるげん☆　シュウ・リベールです！

今日は朝からパパ上と剣の訓練です。

ママ上も見守ってくれるみたいです！！

やる気がモリモリです（　＾ω＾　）

パパ上が使う剣術は「ヒテンーミツルギースタイル」というらしいです。

あれ？どっかで聞いたことあるような・・・。

父「よし、では今日の訓練を始めるぞ」

シュウ「はい！！父上！」

父「ノン！パパ上と呼べ！！！↑ここ重要」

シュウ「はい！！パパ上！」

父「うむ。よろしい。とは言っても今日はわたｓ「シュウちゃん怪我しないようにね～」おい、

　私が喋っているとｋ「はい！ママ上。怪我には気をつけます」ｏｒｚ　」

シュウ「パパ上？どうなさったのですか？」

父「もういい。もういいもん。（´・ω・｀）」

シュウ「ぱ、パパ上、元気をだしてください（苦笑）」

～小一時間～

父「うむ。では私と試合をしてもらうぞ」

シュウ「はい！」

母「では、両者構え。・・・始め！」

その合図と共に父上から凄まじい気が溢れだした。

そして、父は二人に分かれた。

シュウ「えっ？」

父2「え、チ○コ痺れた！何とかせい！尿出ません！」

ルパン：「はぁ～」↑誰？！

父1「尿！
　尿尿尿尿尿尿尿尿尿尿尿尿尿尿尿尿尿尿尿尿尿尿尿尿
尿尿尿尿尿尿尿尿尿尿尿尿尿尿尿尿尿尿尿尿尿尿尿尿
尿尿尿尿尿尿尿尿尿尿尿尿尿尿」

先手を取られまいと、覚えたての瞬動を使い父上の前まで移動した。

父2「出な〝い〟よ〝お〟」

そしたら、もう一人の父上に軽い爆発魔法を使われた。

シュウ「！！はぁ～　ひぃ～　ふぅ～

ああ↓　ああ～→　ああ～←　ああ↓」

母「チン☆しよ」

父1「プーーーーーーo（、ω´#）oーーーーーーン！！！！！
クッキー冷やしてたヤツ、食ったやろプーン

プーーーーーーo（、ω´#）oーーーーーーン！！！！！
ポワレ！」

父の訳の分からない言葉と共に放たれた神速な連撃は私にキレイに決まっていった。

母「犬から犬へ！」

父2「タバコに何で酒入れた？カビゴン2号」

通行人「千葉って、言いにくいよね．．．」

父1「ん～～～～～～わあ！」

ふらついている私に父上は連撃をどんどんかましてくる。

というか手加減してください（；＾ω＾）

母「材質ティ〇コ」

母上、いきなり何言ってるんですか！！！！

父2「ベーコン吹いたぞｗｗｗｗ」

父1「凹んだペ〇スに直撃ですか？コンテナ食わねーか！？ベースボーーーーール！！」

一瞬にして九つの突きを放ってきた。これは避けれないし防げないな・・・。

シュウ「よっこらS〇X　パオーン！」

俺は意味の分からない言葉を吐きながら突きの勢いに飛ばされて後ろに吹っ飛んだ。

シュウ「くぅ！」

なんとか意識を飛ばさずに耐えれたか・・・。体いてぇ。

母「スリーベース・・・」

あ、ダメだ。この試合始まってから皆おかしい。

こうなったら俺もおかしくなってもいい！！親父に一矢報いてやる！！

シュウ「Ｈｅｙ！アキ～ラ☆ペンギン貸してくれ♪たかが粗チ○」

その後の記憶はない。

おまけ

そういえば私や僕から俺になったのってあの時からだな。

・・・ゑ？マジかよ・・・。

親父のせいか？俺がバカなのは（ 。д 。）！

閑話　～ある日の父との訓練（下ネタあり）～（後書き）

下品なネタ書いてすみません。

どうしても書いてみたかったんです！

ここまで読んでくださった方、ありがとうございます！

第四話　幼女を保護した（前書き）

閑話の酷さが・・・

原作ブレイクとして、あの人の義父兼師匠になります。

では、どうぞ！

第四話　幼女を保護した

どうも、シュウ・スカーレットだ。
最近、不穏な空気が流れ始めてきた。
また、戦争が起こるんだろうな。
人はいつになっても争いを繰り返す。
まぁそれが人が所以なのだろう。
そんなことはどうでもいい！！
今日は重大な発表がある！
俺に娘兼弟子ができたぜ！！！！
名前を「リアンヌ・Ｓ・サンドロット」という。
金髪で愛くるしい俺の娘だ♪
年齢も１０歳でめちゃくちゃ可愛い！！
この子との出逢いは悲惨だった。
～回想～

リアが住んでた村は長閑で村人も優しく、平和な場所だった。
だが、ある日村が賊に襲われ村人が悉く惨殺されていった。
男は殺され、女は犯されてから殺された。
そしてこの子は殺される父親と犯され殺される母親を見てしまった。
咄嗟の行動だったんだろう、俺が駆けつけた時には既に
リアが槍を持ち両親を殺した賊を屠った後だった。
その後、俺は村を襲った賊を全員殺しリアを保護した。
〜回想　終了〜
そして現在に至るって訳さ。
あの子の意思で、強くなりたいって願ってきた。
俺は危ないので反対したがその想いは強いらしく、眼が真剣だったので
戦い方を教えることにした。
いざ教えるにしても基礎体力が必要な為、最初のうちは
身体能力を向上させることをメインに行った。
そして技を教え始めてから驚愕した。

リアは天賦の才があるようだ。スポンジの様に教えていくことを吸収し

自分のモノにしていく。特に槍技は群を抜いて才能があった。

父親がチートなら娘もチートでもいいよな・・・？

てなことで、娘のチート化計画が始まった。

「おとーさん、稽古つけてくださいー！」

よし、リアが呼んでるから行くかw

～現在　七耀暦　９２０年頃～

第四話　幼女を保護した（後書き）

ここまで読んでいただきありがとうございます。

こんな駄文を読んでくれる人が居るだけで私は嬉しいです！

感想をくれる方も居て、自分の設定や構成の甘さなどが分かりもの凄く助かってます！ありがとうございます！

誤字・脱字がありましたら報告してくださるとありがたいです。

閑話　～娘との修行～（前書き）

どうも、厨二です。

私の勝手な妄想でリアンヌさんと絡ませたかったので

閑話を挿みました！

マジキチや意味不な内容にはしないように書きました。

暇つぶしにでもなれば幸いです。

文章の構成も変えて見ました！

次回には戻しますがw

では、どうぞ。

閑話　～娘との修行～

仄暗い洞窟の中に、一人の青年・シュウとそれに連れ添うように歩いている少女・リアンヌが居た。

洞窟の雰囲気は怪しく、一寸先の闇からは人のものとは思えない気配を感じる。

既に魔物に囲まれてるのではないかと錯覚すら覚える。

青年は愛用の糸を張り巡らし気配を読む。少女は手に馴染みはじめたランスを構える。

この洞窟に住む魔物程度、青年にはてんで問題ないが少女にとっては気の抜けるような

場所ではないのだ。そもそも何故、このような場所に居るかというと話は今朝方まで戻る。

いつも通り、シュウはリアンヌに稽古をつけていた。

リアンヌの才能には目を見張るものがあり、教えることをどんどん自分のモノにしていく。

最近では魔物相手に実戦もさせ経験を積ませていた。

あらゆる環境においても戦えるように、時には水場で、時には砂場で、時には細道で

時には橋の上で、絶壁の手前、水中、森林、空中など。

そんなこんなで今回はどうしようと考えながら、酒場で情報を集める。

するとどうだろうか。なにやら、とてもとても強い魔物がわんさか居る洞窟があると

いう話を聞いた。それだけではなく、その洞窟にはお宝が隠されているとの話だ。

これを聞いたシュウはニヤリと笑い酒場から出た。

そして娘を連れその洞窟に来たのだ。

今回の修行（宝探し）においての役割はシュウはサポート、リアンヌはメインアタッカーだ。

リアンヌにとっては格上な魔物ばかりだ。それにも拘らず確実の一体一体魔物を屠っていく。

それも段々と効率よく動き、その動きも環境に適応していく。実戦という環境で

急成長しているらしい。蛙の子は蛙。やはりチートの娘はチートになるのだろうか？

そんなことを考えながら娘に致命傷が当たらない様に巧みに糸で敵を切り裂く。

だいぶ奥まで進んだろうか、ひらけた場所に出た。ここが最果てらしい。

「お父さん。やっと着きましたね！」

リアは元気なことだ。あれだけ戦闘を繰り返したにも拘らず体力にはまだ余裕がありそうだ。

よく見ると置くにほんのりと光る物が見える。

リアはいち早くそれに気がつき駆け寄ろうとした。

「リア！！上だ気をつけろ！！」

俺の言葉にリアはバックステップポォした。

さっきまでリアが居た場所には人が立っていた。

一言で表すなら筋肉。二言目にはウホッ。おまけにいい漢だ。

あれ？こいつどっかで見たことあるぞ？

そう思っていると漢は喋りかけてきた。

「おめぇら、ここがガウル様の住処だと分かってきてんだろうな？！」

ボワァッ！

その瞬間、ガウルという筋肉の固まりにから発せられる殺気と威圧

にこの空間は満たされた。

リアもさっきまで戦ってきた魔物とは訳が違うと、冷や汗をかいてるようだ。

この漢にリアはまだはえぇ。

「リア！コイツとは俺がやる。お前はひっこんでろ！」

リアも流石に今の自分では叶わないことが分かっているからか素直に引いた。

「お父さん。負けないでください！」

元気が出てきた！

お互い、肉弾戦から気を使った技でお互いを削りあう。

あまりにも長引くので、途中休憩を挟み、談笑し、宝を貰い、外に出て再戦した。

その戦いは何日にもおよび辺りの地形を変形させていった。

時には酒を飲み語らい、飯を食い、勝負していった。

気がついた時にはそいつは仲間になっていた。

おまけ

シュウ「そういえば宝ってなんなんだ？」

俺はリアに聞いた。

リア「なんか力の封じ込められたランスです！」

ガウ「そいつは、俺様が住み着いた時からあったからな。俺様でも扱えなかったぜ」

ガウルはそういうと豪快に笑っていた。

リア「私、これ扱えるような気がします！なんていうか一心同体な感じがするんです！」

リアには何か感じるモノがあるみたいだ。

シュウ「へっ！ガウルてぇめーには扱えない物は俺の娘（リア）には扱えるらしいぜ！

まぁガウルは俺様より雑魚（ざこ）ぇからしゃあねぇーかｗｗ」

ガウル「あ？俺様の方が強えーに決まってんだろ！」

シュウ「あん?!やんのかコラァ!!」

ガウル「上等だ!!かかってこいや!!!!」

そして殴り合いが始まる。

閑話　～娘との修行～（後書き）

読んでくださりありがとうございます！

オリキャラをだしてみました。

分かる人には何のキャラが元になってるか分かっちゃうと思います（苦笑）

誤字・脱字、アドバイスなどありましたら教えてもらえるとありがたいです！

オリキャラ（バグキャラ）紹介（前書き）

閑話に出てきたキャラについてです。

ちなみに主人公はこのときＬｖ．１３０ぐらいです。

リアはＬｖ．７５ぐらい。

オリキャラ（バグキャラ）紹介

名前　ガウル・デ・ポンド

性別　漢

種族　バグ（一応、人間）

特徴　バカっぽい。あとバグ。

Lv.　127

HP　21450

EP　3000

STR：　1734　DEF：　1526

ATS：　1380　ADF：　1380

SPD：　78　DEX：30

AGL：　49

容姿　ネギまのラカンをもっと濃くした感じ。

装備

武器　気合

防具　服

靴　　頑丈な靴

アクセサリー
・漢の証
・なし

クラフト

気合防御　　ＣＰ．２０消費
攻撃を一回気合で完全に防御する。

うらぁ！　　ＣＰ．２０消費
すごいパンチ。範囲、縦・横・斜め２マス。

気合　　ＣＰ．３０消費
気合でＳＴＲ　ＤＥＦ　ＳＰＤを３ターンＵＰ

百連打　　ＣＰ．３０消費
気がのった凄まじい拳の百連撃。アーツ解除。

？？？

Ｓクラフト

漢の一撃
全身全霊をかけた一撃。全てを砕き全て破壊する。
その後ろ姿は漢だった。

零・我雨流砲
練りに練りこまれた氣弾が雨の如く降り注ぐ。
そして大きな気の流れを作り全てを破壊する。

閑話　～剣士と紳士と少女～（前書き）

厨二です。

仲間を増やそうぜキャンペーンですw

今更ながら、今回も世界観壊しますので

それが不快な方はお読みにならない方がいいです。

ではどうぞ！！

閑話　～剣士と紳士と少女～

今日も今日とて筋肉(バカ)と喧嘩したのちリアを鍛えてるシュウだ。

ってかいくら俺が指輪で力を封印してるからといってあの筋肉(バカ)は対等に

渡り合ってくる。バグすぎるだろ！！

そういえば指輪について話してなかったな。封印に使ってる指輪は昔、大聖堂の

地下にあるだだっ広い場所から借りてきたんだぜ。

死ぬまで借りるだけだから盗みではないぜ？そこんとこ勘違いするなよ。

まぁその指輪なんだが、めっちゃボンゴレリングに似てるんだわｗｗ

実際、炎も出せたし武器に炎を纏わせることもできた。

俺は封印の術式を入れるものとしか使ってないけどな！

ガウルには晴？と思わしきリングを与えた。あのバカはすぐに炎をだしたけどな。

あいつの耐久力が無駄にあがって厄介なことこの上ないな。

リアには嵐？と思われるリングをあげた。

“これは婚約指輪ですか?!”と戸惑っていたが俺が“そんな訳あるか!”って言ったら

もの凄く落ち込んでたな。なんでだろ?色が気に食わんのか?

そんな訳で、残りの指輪分は仲間を集めたいかなぁと思案してる。

さて、考えてる中にリアが気絶したから昼飯作るか。

昼飯を食い、午後の訓練に入ろうとすると三人組が近づいてきて喋りかけてきた。

男二人に、少女が一人。なんだこいつら?

「あの、すみません。少しお聞きしたいことがあるのですがよろしいですか?」

胡散臭そうな笑みを浮かべた青年が喋ったのだろう。その見た目をみると教会関係者

のようだ。

「ああ。かまわないぜ」

そう返事をすると、その青年は“ありがとうございます。”といいスマイル１００％

を向けてきた。

〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜

説明中

べ、べつに作者の力量がない為とか思いつかなかったとかじゃないんだからね！

勘違いしないでよ！

~~~~~〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜

ふむ、なるほど。話を纏めるとこういうこった。

・最近よく地形が変わる。

・赤毛の奴と筋肉の塊が原因らしい。

・連れに幼い女の子がいるらしい。

・それらの調査および討伐または説得の為、私たちが来た。

それって俺たちじゃね？だって覚えあｒ「ええ、私の考えでは貴方たちとにらんでます」

この胡散臭い笑みを浮かべる奴きれぇーだ。

「まぁ、私もそうだと思うがな。」

いま喋った奴はもう一人の男で老け顔だ。手と物を見る限りこいつ
~~~~~

は剣士らしい。

「でも、私たちはそんなことするつもりはないわ。」

どういうことだ？

「私達は教会から出たかっただけなのです。世界を見てみたかった。だから、この仕事を請けたんです。あなた方を探したのは単に興味があったからです（＾ω＾）」

まぁそのまま話し込み、仲間になることが決まった。

胡散臭そうな笑みを浮かべるのがベル・エルピー

老け顔剣士がリュウ・チルダ

少女がフェル・クロー

「一気に大所帯になったなw」

それぞれに仲間の証として指輪をあげた。

おまけ

フェル「私たちってあまり喋ってなくない？」

リュウ「ああ、そうだな。」

フェル「もっと出番ほしぃい！！！」

リュウ「ああ、そうだな。」

フェル「もう！！リュウはさっきからそれしか言わないじゃない！

本当に出番ほしいの？」

リュウ「仕方ないだろ。作者に技量がないのだから。」

フェル「そうね。仕方ないわ・・・。ハァ・・・。」

ベル「ふふふ。私の先行勝ちですね（ー｀ー）ニヤリ」

閑話　～剣士と紳士と少女～（後書き）

ベル↓　霧　リュウ↓　雨　フェル↓　雲　です。

ボンゴレリングの使命？みたいのはありません。

好きだから出しただけです。後は仲間の証みたいな。

効果的には、状態異常無効とＳＴＲとＤＥＦのアップです。

後はそれぞれの指輪の固有能力があります。（マスタークォーツみたいな。）

誤字・脱字などがありましたら教えてくださるとありがたいです！

第五話　指輪と戦争と組織（前書き）

厨二です！

そろそろ話を進めてみたいと思います！

最後の仲間は戦争中に会う予定です。

では、本編をどうぞ！

第五話　指輪と戦争と組織

俺たちは今、大平原で食事をしている。

仲間たちとゼムリア大陸を巡ったりして昨日、西ゼムリア大陸と呼ばれる

ゼムリア大陸の西側に帰ってきた。この大平原がちょうどスタート地点だったのだ。

ここに居る面子は5人。ガウル、リュウ、フェル、ベル、俺だ。

え？リアはって？あいつは一人旅にでちまった（，・ω・、）

大丈夫か？まぁ大丈夫か！俺やガウルに次ぐ実力だしw

ってかあの指輪のアーティファクトは不老効果があったみたいなんだ！！

俺は元から不老だし、ガウルもバグだから不老だろう。

気づけた理由は９４０年頃だったかに、リアが指輪から炎を出せたんだ！

俺は今まで出せなくて落ち込んでたリアを慰めるのが好きだったんだが

炎を出したときの笑顔と“これでお父様と一緒♪”という言葉に

舞い上がってしまったｗｗ

その日から１０年経っても見た目が変わらないリアを見て気がついたって訳さ。

他の奴らも炎を出した日から不老になったみたいだ。

まぁ仲間達と世界を周ってて感じたのが紛争が多いってことだ。

鎮圧し、救援などを行っていたらだんだんと有名になっていき

人が集まるようになってきた。そこで俺は思いついた。

この世界がネギまじゃないなら俺があの組織とグループを作ってもいいんじゃね？ってｗｗ

てなことで、９４７年に悠久の風を作っちゃいました！

主な活動としては、紛争区域での救援・援助や危険な魔物・悪魔の討伐など。

危険な仕事もあるためクエストをＳＳＳ～Ｄ－までの難易度に振り分け

自分のランクにあった仕事を選べるようにした。ちなみにＳＳＳランクは今のところ

創始者の俺たちしかいない。

そして俺たちはその中でもアラルブラというグループで活動している。

まぁ今はリアがいねぇーけどな。

そういえば最近、エレボニア帝国の方がきな臭い感じになってきてるらしい。

紛争が頻繁に起こっている。俺達も見つけ次第鎮圧して市民の救援をしてるが

近いうちに戦争が起きそうだな。

はあ～。リアは元気にしてるかねぇ～。

～～～現在　七耀暦　９５２年頃～～～

第五話　指輪と戦争と組織（後書き）

ここまで読んでいただきありがとうございます。

世界観壊しまくりですね（苦笑）

誤字・脱字などがありましたら教えていただけるとありがたいです！

第六話　戦争（前書き）

まず、ありがとうございます。

こんな駄文を読んでくださるというのは嬉しいことです。

今回も毎回の事ながら独自解釈、世界観破壊してます。

それが嫌な方は読まないでください。

そんなこんなで、本編どうぞ。

第六話　戦争

前回から数年したのち、帝国で戦争が起きた。

帝国内の紛争で済めばよかったのだが、帝国が二つに割れた。

新独立国家　レギン帝国が生まれた。そして誕生した後、エレボニア帝国への侵攻があった。

そこから国同士の戦争になった。帝国は数多の紛争鎮圧により軍事力が疲弊していた。

開戦時からレギン帝国の優勢で進んだ。エレボニア帝国も持てる力を持って必死に抵抗した。

そこからは一進一退の混戦状態。俺達はエレボニア帝国側についた。

そこからは戦況は変化した。俺達アラルブラが数々の戦場を渡り戦況を覆していったのだ。

だんだんと俺達は戦場で有名になっていった。そして厨二みたいな二つ名を付けられた。

俺は主に糸を使い派手に死体を作っていったら

《殺戮流転（ジェノサイドミラージュ）》《あの人攻撃効かないんですが・・・》などなど

ガウルは見えない速度で放たれる拳で真っ赤な花を咲かせることから

《疾風連鎖（ソニックフラワー）》《拳で戦車破壊するとかないわー》《筋肉》

ベルはその笑みを浮かべながら半永久的に発動し続ける古代アーツから

《黒猫機関（モータルファクトリー）》《あの笑みウザ！》

リュウは刀での攻撃の仕方から

《滅亡肋骨（スラッシュインサイド）》《剣神》《弾が切れる》

フェルは俺の教えた凍結技法を使い素早く殲滅していくことから

《凍結連撃（フリージングバスター）》《うぁょうぃ゛ょっょぃ》

などと呼ばれている。

以下はこの前の戦場での音声です

シュウ「ふははは！最強の俺様がお前らに天国をみせてやる！」

敵兵士「あんなのは戯言だ！（ー（ーд（ーд（、д,）д一）д一）一）『突撃ぃ～～！』」

シュウ「さっさと退けばいいものを。　てめ～らは気がついたときには死んでる！」

敵兵士「ぐ・・・。」

ガウル「うらぁ！！」

敵兵士「逃げろー！！」

ドッガーン！！

ガウル「ガハハ！シュウ俺とお前どっちが多く倒せるか勝負だ！！！」

敵兵士「うおー！！」

ベル「おやおや、あちらのバグ共は元気ですね。」

敵兵士「あいつはアラルブラのベルというやつではないか！

あいつを討ち取れば士気はあがり俺達は名が売れるぞ！！」

ベル「あなたたちに、私が討ち取れればの話ですね。」

ダン！！

敵兵士「くっ！な、何が起こったんだ?！」

ベル「あなた方には分かりませんよ。」

リュウ「はぁ～。あいつら暴れまくりやがって。」

シャン

リュウ「ふぅ。まだまだ多いな。」

フェル「アハハ。貴方たちはバカなのね。敵わないのに挑むなんて」

敵兵士「相手は子供だが油断するな！なんたってアラルブラの一員だ！」

フェル「いくら警戒したって無駄。だって貴方たちはフェルの領域に入ってしまったもの」

パキパキ

敵兵士「な、なんだ！身体が凍っていｋ・・・。」

フェル「ふふふ。氷のオブジェの出来上がりね」

音声終了

こんな感じで皆が好き勝手に無双していた。

その結果の二つ名だ。

エレボニア帝国側では俺達は希望の光になってるみたいだ。

戦争は長引くだろう。どちらかが完膚なきまで潰れるまで。

だが、俺の勘が言っている。

この戦争、裏で操っている奴が居てそいつをぶっ飛ばせば戦争は止まると。

～～～現在　七耀暦　９５５年頃～～～

第六話　戦争（後書き）

ここまでお読みいただきありがとうございます。

誤字・脱字がありましたら報告していただけるとありがたいです。

第七話　調査（前書き）

どうもです。

今回も独自設定、独自解釈です。

原作入れば少しはマシになると思います（苦笑）

では、本編どうぞ。

第七話　調査

皆さんこんにちわ。ベルです。ふふ。シュウはどうしたかって？

ただいま別行動中です。シュウの“この戦争に裏があると思う”の一言で

全員別行動をし、調査することになりました。

私は、最近・・・といっても５０年ぐらい前から成長していってる企業ＩＢＣとやらが

気になったのでその方面で調査することにしました。

私がまだ教会に居た頃、なんかの本で読んだことがあります。

ＩＢＣの本社が建つ地域には錬金術師と《七の至宝》があると。

しかし実際は至宝は失われたと噂されています。Ｄ∴Ｇ教団とやらも気になるのですが

今回は置いておくことにします。リュウかフェルが調べてくれるでしょう。

さて、では調べますか。調査の基本は聞き込みですよね♪

――――――――――――――――――――――

青年？調査中

ーーーーーーーーーーーーーーーーーー

あらかた、話は聞けました。

あの企業の創立者はここら辺に住んでいた豪族らしいです。

まぁあまり有力な話は聞けませんでしたが、特殊な力場は発見できました。

それに魔法陣？錬成陣？とでも言うべきなのでしょうか、

特殊な力で持って作られた陣もありました。

別段解けないと言うわけではないのですが、流石に術者にばれない様に解くには

準備も時間もありませんしほっときました。

問題なのは力場の方です。今は小さいですが何かが原因で力場に変化が起こったら

悪魔なり幻想種が現界してしまいます。

陣も力場も自然にできるような物ではありません。

ここに住んでいた錬金術師が実験なり何なりで作った物なのでしょう。

憶測でしかありませんが可能性は高いです。
ＩＢＣを創設したのは錬金術師の一族なのでしょう。目的は分かりませんが
調べていけば分かるような気がします。
ですが、残念ながらそれは別の機会にということで。
ここは白ですかね。
というか、シュウの勘は当たるんですかね？（苦笑）
まぁ、確かに　新国家の兵力・兵器の質・錬度　がおかしいんですよね。
特に兵器。帝国内でゲリラ活動していた時の兵器と独立後の兵器では質が断然違いますし
人員も明らか多くなってます。ゲリラ活動していた人員ならまだしも、人数が増えたにも
拘らず、兵の錬度が高いです。最初っからその力を使っていたら
国家転覆も容易かったはずです。では、何故それをしなかったか。
それはできなかったからではないでしょうか？
兵が居たならもっと大規模なゲリラ活動をして部下に経験を積ませ

た方が得です。

それをしなかった理由。それは兵はそんなに多くなかったから。

兵器に関しても、紛争中に使った方が効果的ですしね。

そこから思うに、他の第三勢力から援助、助力があったのではないでしょうか。

考えがその結果に行き着いたからこそ、皆は納得し調査をしているのです。

まぁ今回、私が調べた所はハズレでしたがね。

でも、この地にはナニかがあるような気がするんですよね。

勘というか経験的に（笑）

ふぅ、では私は私達の隠れ家にでも帰りましょうかね。

～～～現在　七耀暦　９５７年頃～～～

第七話　調査（後書き）

ここまで読んでいただきありがとうございます。

しばらくは各キャラが独自に気になった点を調べ

裏に隠れている組織を暴く！みたいな流れにするつもりです。

主人公視点はメンバー最後の調査になる予定です。

誤字・脱字がありましたら教えてくださると嬉しいです！

ネタもくれると嬉しいです！

あと文才もくれると嬉しいですｗｗ

第八話　サボり後、孤児弟子入り（前書き）

続けて投稿です。

今回はガウル視点です。

本編をどうぞ。

第八話　サボり後、孤児弟子入り

うっす！ガウルだぜ！！

俺は調査とかよくわかんねーから戦場を渡りながら様々な街を渡ってるぜ。

ここら辺はエレボニア帝国　レギン帝国　傭兵　賊など色々と入れ混ざってる。

所謂、混戦状態というやつだ。

ガ「小僧。ここからは戦場だ！おめぇが着いて来ていい場所じゃねぇ。

さっさとどっかに行きやがれ。」

俺が誰に話しかけてるかと言うと、さっきの賊に襲われていた村で助けた少年だ。

親が殺されたらしく、頼る親戚も居ないらしい。だからと言って俺様に着いてくるとは

いっちゃなんだが、めんどくせー。

少年「僕、ガウルさんみたいに強くなりたいんです！鍛えてください！

なんでもします！だからどうか連れて行ってください！。」

はぁ～。ほんとにたりぃ。

ガ「誰がんなめんどーな事するかよ。１０００万払うならいいぜ！」

少年「うっ！で、でもやる気はあります！！お金は今は払えないけど・・・

将来必ず払いますから！お願いします。」

本当にしつけーな。

あーあ、話してる内に戦場にはいっちまったじゃねーか。

俺は適当に敵を屠りながら、どんどん中心部に向かう。

そうすればガキが諦めると思ったからだ。

しかしどうだ、危なげではあるがちゃんとついて来やがる。

我流なのだろう。全然なっちゃないが、才能が垣間見える。ちょっと面白くなって

きやがったぜ。俺はどんどんペースをあげていく。

半分以上をぶったおしたぐらいだろうか、よく見れば少女がどっかへつれていかれそうに

なっていた。俺は助ける為向かおうとしたが雑魚が纏わりついてきやがる。

くそ！うらぁ！！！とにかく拳を振るい、死体を量産していく。

「その子から手を離してください！！」

俺の耳にさっきまで一緒に居た小僧の声が届いた。

俺は戦いながら意識を声のした方に向け続けた。

賊「なんだガキ、殺されてーのか？！あ？！」

少年「その子から手を離してくださいって言ったんです！！」

賊「あひゃひゃ！正義のヒーローごっこか？家に帰ってママのおっぱいでも

吸ってな！」

少年「手ぇ離せって言ってんだよクズが！」

賊「てめぇ！この剣が見えねーのか？それにお前は囲まれてんだよ。

その状態で何ができるってんだよ。」

少年「仕方ない。実力行使しかないか。」

賊「くっ！てめぇらやっちまえ！！」

賊達「「「「おう！！」」」」

ちっと不味いか？と俺が思った時、賊は一瞬にして死体になった。

・・・くははは！！小僧にあんな潜在能力があるなんてな。これは楽しめそうだ！！

賊「ば、お前たち！相手は子供だぞ！！何手間取ってんd・・・」

少年「貴方で最後です。」

ザシュ

少年「ふぅ。大丈夫ですか？」

少女「グスッ・・・う、うん・・・ぐす、あ、あり・・が、とう・・・

うぇーん、怖かったよー」

少年「大丈夫ですからね。お母さんのところへ連れて行ってあげるね。」

少女「・・うん・・ありがと」

向こうは解決したみてーだしこっちもさっさと終わらせるか。

少女「おにーちゃんたち、ばいばーい！」

母「本当にありがとうございました。」

少年「じゃあねー！」

ガ「小僧、お前を弟子にする件だが・・・いいぜ！お前を鍛えてやる！！」

少年「！！本当ですか？！」

ガ「ああ！！お前は強くなりそうだしな！！」

少年「ありがとうございます！！」

ガ「ところで名前なんていうんだ？」

少年「ルーシュ・ペクトといいます！」

ガ「そうか。じゃあルーこれからよろしくたのむぜ！！」

ルー「はい！！師匠！！」

こうして、最後の仲間ができたのであった。

第八話　サボり後、孤児弟子入り（後書き）

やっとメンバー揃った感じです。

ここまで読んでくださってありがとうございます。

誤字・脱字がありましたら教えてくださるとありがたいです！！

オリキャラ達　ステータス（前書き）

オリキャラ集団こと、アラルブラメンバーのステです。

見なくてもなんも問題なかとですw

オリキャラ達　ステータス

アラルブラ

リーダー　役目：大空
シュウ・スカーレット
Ｌｖ．１６７
ＨＰ　４８４９８
ＥＰ　５８００
ＳＴＲ：　２５３２　ＤＥＦ：　２２５２
ＡＴＳ：　２１８０　ＡＤＦ：　２０８０
ＳＰＤ：　１１８　ＤＥＸ：　３４

イメージ　ネギまのナギ・スプリングフィールド
装備
武器　素手または糸または刀
防具　不思議なローブ
足具　不思議な靴
アクセサリー
・大空のリング
・アンチョコ

頭脳担当　役目：霧
ベル・エルピー
Ｌｖ．１４７
ＨＰ　３０１２９
ＥＰ　２４１９

STR：　1532　DEF：　1452
ATS：　1580　ADF：　1460
SPD：　95　DEX：　32

イメージ　いぬかみっ！のはけ　がローブを着てメガネかけてる感じ
装備
武器　素手
防具　法術の施してあるローブ
足具　靴
アクセサリー
・霧のリング
・封印具

常識担当　役目：雨
リュウ・チルダ
Lv．146
HP　32868
EP．1200
STR：　1832　DEF：　1652
ATS：　1350　ADF：　1260
SPD：　99　DEX：　32

イメージ　天誅の力丸みたいな感じ
装備
武器　龍古刀
防具　黒の服
足具　黒の靴

アクセサリー
・雨のリング
・なし

遊撃担当　役目：雲
フェル・クロー
Ｌｖ．１３８
ＨＰ　２４１８０
ＥＰ　２４８９
ＳＴＲ：　１２６２　ＤＥＦ：　１３５２
ＡＴＳ：　１５５０　ＡＤＦ：　１５６０
ＳＰＤ：　８５　ＤＥＸ：　２６

イメージ　ひぐらしの古手梨花みたいな感じ
装備
武器　魔具・投げナイフ
防具　わふーなマント
足具　ちゃんとしたつくりの靴
アクセサリー
・雲のリング
・親の形見

筋肉担当　役目：晴
ガウル・デ・ポンド
Ｌｖ．１６４
ＨＰ　４７２３０

EP　3600
STR：　2662　DEF：　2352
ATS：　1550　ADF：　2060
SPD：　109　DEX：　33

イメージ　ネギまのラカンを濃くした感じ
装備
武器　素手
防具　普通の服
足具　普通の靴
アクセサリー
・晴のリング
・漢の証

パシリ担当　役目：雷
ルーシュ・ペクト
Lv.78
HP　10943
EP　800
STR：　522　DEF：　465
ATS：　472　ADF：　420
SPD：　56　DEX：　23

イメージ　黒執事のフィニアンをもっと子供にした感じ
装備
武器　素手
防具　服
足具　靴

アクセサリー
・雷のリング
・家族の形見

萌え担当　役目：嵐
リアンヌ・Ｓ・サンドロット
Ｌｖ．１５０台
ステータス不明
装備不明
アクセサリー
・嵐のリング
・不明

オリキャラ達　ステータス（後書き）

こんな感じです。

私自身が忘れないためにも書きました！

第九話　尾行のち時々、信者（前書き）

どうもっす。

この小説を評価してくださった方ありがとうございます。

お気に入りに入れてくださった方もありがとうございます。

一人でも読んでくださる方が居るだけで私は書く気力がでます！

こんなクソみたいな駄文しか書けない

私ですがこれからもよろしくお願いします。

今回はリュウ視点です。

では、本編をどうぞ！

第九話　尾行のち時々、信者

あの馬鹿共（ストレス）から一時的に解放されたリュウだ。

たく、毎回非常識なことばかり起こす奴らだから少しの間それに関わらなくていいとはありがたい。まぁなんだかんだ言ってあいつらの

ことは嫌いじゃないんだけどな。べ、別に勘違いするなよ！／／／だからと言って

あいつらが好きだってことじゃないからな！！なんていうか嫌いになれないって

いうか憎めないっていうか・・・って私は何を言ってんだ・・・。

はぁ。

別行動したはいいが、あいつらが歯止めがなくなったとばかりに問題を起こして

ないか心配だ。（汗）

ベルの説明で戦争の影に第三者が居る可能性は納得できたが、個人個人怪しいと

思われること、気になることを調査って曖昧すぎないか？

まぁ情報収集しながら考えるか。そう行動指針を立て酒場へ行った。

そうすると酒場のマスターから気になる情報を手に入れた。
一つは最近、鉄騎隊という部隊を率いて戦場を駆け回る金髪の女性が居るということ。
もう一つは、戦争に紛れて人攫いがあるらしい。
金髪の女性・・・。なんか覚えがあるような気がするが、まさかな。
問題なのはもう一つの方だ。人攫い。なんと卑劣な！！
割合的には子供が多いらしい。
私はこれについて調査しよう。本来の目的とは違うかもしれないが
これはほっとけるものではない。
そして私は近隣の村を周り情報を集めた。

そして、それは偶然だった。私が次の村へ行く途中で怪しい男たちを見つけたのだ。
その集団よく見ると前に立ち寄った村で聞いた人攫いの特徴に、似ていた。
もしやと思い、ちゃんと観察すれば幼い子が二人連れ攫われていた。

此処で切り伏せてやってもいいのだが奴らを斬ったところで根本的な解決にはならないだろう。

なら、後をついて行きアジトを暴こうじゃないか。

そう考えを纏め、私は息を殺した。

どれぐらい進んだろうか。奴らについて行き、森を抜けるとそこには山への入り口があった。

そのまま登るのかと思いきや、山道入り口から外れ山伝いに進んでいった。

そうすると近くまで来なければ分からないほど巧妙に隠された入り口があった。

「ここがアジトか・・・。」

私はそう呟き、集団に瞬歩で近づき鎮圧した。中に入られては厄介だからな。

私は死体を隠し、助けた子供たちを村まで届け、奴らのアジトに戻った。

本当は仲間たちに援護要請するのがいいのだろう。

または悠久の風に支援要請をだしてもいいだろう。

だがそれでは遅すぎる。待っている間に被害者は増えて行くだろう。

・・・よし！油断も慢心もしないように注意していこう。

中に入ってみたが天然の鍾乳洞に手を加えたという感じだ。

人の気配に注意しながら進んではいるが、広いせいかあまり人に遭遇しない。

部屋を一つ一つ巡っているが怪しい薬があったり怪しい装置があったりする。

そして、とある資料を見つけた。

ん～何々、この資料によればここの集団たちは《D∴G教団》というらしい。

拠点は此処だけではないらしいが、他はどこにあるかは書いてないな。

他には《真なる神》やら《D》やら《大いなる主が統べる魂の結社》やら色々書いてある。

D∴G教団は七耀教会すなわち《空の女神》に反抗する集団らしい。

なんと罰当たりな。この資料は教団の目的や成り立ちを纏めたものらしい。

ん？！気配がどんどんこっちに向かって集まってくる！

ばれたか？
背に冷や汗をかき緊張していたら、気配は部屋の前を通りすぎ
出口へと向かっていった。
「どっかへいくのか？ならちょうどいい。攫われた人々を探すか。」
そして奥に行った私が見つけたのは、血の池とあらゆる死に方をした惨殺死体だった。
青年・成人男性・女性・子供・幼児・老人、年齢問わず腕がなかったり
頭がなかったり、骨だけだったり、まともな死体は一つもなかった。
ここは研究施設でもあったらしい。奴らの情報が少しでも欲しいが探しても
資料が一つもなかった。持ち去ったのか？
そう思っていたら、死体の臭いで分からなかったが火薬の臭いが僅かにするのがわかった。
案の定探してみれば、大量の爆薬があった。そして見れば火が点いてるじゃないか！って、
早く逃げなければ！！！！

結果だけ言おう。私は脱出に間に合った。

だが奴らの拠点は完全に崩壊してしまった。今から奴らを探しても遅いだろう。

私は助けられたのが二人だけだというのが悔しかった。

まだ、調査していたいがこの事をシュウ達に報告したい。

そうして、私は後ろ髪を引かれつつ隠れ家へ向かったのだ。

第九話　尾行のち時々、信者（後書き）

ここまで読んでいただきありがとうございます。

D∴G教団について絡めてみました。

誤字・脱字がありましたらお知らせしてくださると嬉しいです。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n7332y/

チート主が歩む軌跡

2011年12月1日00時52分発行